#metoo に対する”誹謗中傷”的語りの類型化とアノテーション

武富 有香（国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系）
松田 智裕（立命館大学 衣笠総合研究機構）
須田 永遠（国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系）
宇野 毅明（国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系）

概要： #metoo 運動以降，ソーシャルメディア上にあらわれるようになった誹謗中傷のメカニズムとオンライン上の言説空間の全体像を理解するために，性暴力のトピックについて語る人々の書きぶりや言い回しにそって語りを類型化し，コメントにラベルをつけて分析を試みる．まず，性暴力の告白やその暴力の被害者に関する Yahoo!Japan ニュース上の記事に対するコメントを読み，類型を作成する．この類型にしたがってコメントにアノテーションを行い結果を観察すると，得られた結果と社会学および哲学の既存研究の知見との対応が見出せると同時に，その既存研究に新たな仮説を付け加えることができる．本研究では質的に読まれていたコーパスを量的に扱えるようにする情報学的なアプローチをとる一方で，類型化とアノテーションの作業，すなわち精緻にテクストを読む技術が必要な部分は人手で行う．この手法を用いることで類型に質的な深みを与えることができ，この明確な解釈性を持った類型によってコーパスを”測る”ことが可能となる．

キーワード：ナラティブ，ミソジニー， #metoo，アノテーション，ソーシャルメディア，誹謗中傷

Categorization and annotation of misogynic narrative against #metoo

Yuka Takedomi (National Institute of Informatics)
Tomohiro Matsuda (Ritsumeikan University)
Towa Suda (National Institute of Informatics)
Takeaki Uno (National Institute of Informatics)

Abstract: We created a typology of narratives about sexual violence in social media that have emerged since the #metoo movement, according to the writing styles and phrases, and labeled the comments to understand the overall picture of the online discourse space and the mechanism of this situation. First, we categorized the comments on Yahoo! Japan News that users wrote in response to the news articles about sexual violence and victims of such violence. Then we annotated them according to the typology and analyzed the results. We not only found correspondences between the results and the previous research in sociology and philosophy but also could add new hypotheses. While this study takes an informatics approach to make a qualitatively read corpus quantitatively manageable, the typification and annotation work, which requires specific text-reading skills, is done by hand. This approach gives a qualitative depth to the typology and makes it possible to "measure" the corpus by the interpretable typology.

Keywords: narrative, misogyny, #metoo, annotation, social media, slanderous words

１．研究の背景と目的

2017 年 10 月にソーシャルメディア上で興った #metoo 運動では，プライベートな性暴力被害の告白が連なり，大きなうねりとなって社会に比類なき影響を与えた．声をあげることの勇気が称揚され，新たな連帯の可能性が力強く語られる一方で，告白の信憑性や個人の尊厳を貶めるような中傷的言説の応酬と二次加害の苛烈さにもまた，人々は直面することとなった．

このような状況で恐怖や精神的ダメージの原因となる理不尽な語りはしばしば“誹謗中傷”と呼ばれ，特にその“誹謗中傷”が女性に対する憎悪や偏見，軽蔑である場合には，その言説はミソジニー的であるとされる．

人々はソーシャルメディア上で自分の知りうる範囲をみて，「ひどい誹謗中傷が起きている」，あるいは逆に「騒ぎすぎである」というような認識を抱いている．しかしオンライン上の言説空間の全体像は漠然としており，状況の適切な把握がなされていない．したがって，実際のところどのような語りがどのように存在しているのか，なに

©2022 Information Processing Society of Japan

が誹謗中傷と捉えられていて，どのような言葉がある特定の人や集団に向けられているのか，などの全体を俯瞰すること，およびそのメカニズムを知ることが肝要である．中傷的言説がその言葉が向けられる直接の対象のみならず，その言説空間に身を置く人々を萎縮させ，沈黙させるのに十分であることを鑑みれば，全体像を把握しようと努めるアプローチが，不条理な状況に心を痛める多くの人々の心身を守るためのひとつの手段になるだろうと考える．

本研究では，人を暗に攻撃したり遠回しに貶めたりするときにあらわれる表現を，語彙のみに頼るのではなく，広く語りの方法から分析することを試みる．なぜなら，誹謗中傷には，異なる語彙を用いていても内容上は同一のことを指すようなものが多く見られるからである．しかし，たとえばトピックモデルなどの既存のマイニング手法は，基本的に名詞などの語彙情報に基づいている[1]ため，文章の意味に根ざした分類を行うことが難しい．したがって，内容上の同一性を考慮するためには，単に語彙の頻度や分布だけでなく，意味内容を含めた語りに着目しなければならない．

そのために，1) #metoo 運動をきっかけに告白された性暴力やその暴力の被害者に関するニュース記事に対し，どのような語りが投げ掛けられたかを類型化する．その類型にしたがって 2) Yahoo!Japan ニュース上のコメントにアノテーションを行い，結果を観察する．さらに 3) データの観察によって得られた仮説と，人文学の既存研究とを照らし合わせる．誹謗中傷と呼ばれるものが，どのような場合に，どのような形で，どのような割合であらわれるのかを可視化する情報学のアプローチを用いることで，人文学における知見の傍証を行う．こうした作業は人文学における知見を定量的に確かめる手法の構築にもつながるであろう．

２．分析の方法

Yahoo!Japan ニュース内で配信された性暴力に関する記事を分析することとし，記事に寄せられたコメントと，コメントに対するリプライをコーパスとする．Twitter ではなく Yahoo!Japan ニュースのコメントをコーパスとする理由は，1)当該サイトがニュース記事の直下にコメントが表示される仕様であり，どの記事に対するコメントかが一目瞭然であること，2)文字数の制限がないため Twitter と比べて長い語りを分析対象にできる，という大きな利点があるためである．なお，Yahoo!Japan は法令に違反するコメントや他者を著しく傷つけたり攻撃したりするコメントの投稿を禁止しているため，殺人予告や脅迫などの違法な内容を含むコメントは削除されている．したがって本研究は罪に問われうる違法なコメントは分析の対象に含んでいない[2].

まず，39 記事，8552 投稿を読み，どのような語りがあるかを網羅的に洗い出し，データと照らし合わせながらアノテーションのための類型を作成した．まず，論理展開や推論の飛躍が類似しているコメントを書き留めたり，「普通は～しない」などの言い回しと，その言い回しにあらわれがちな論理展開との組み合わせを挙げたりして，投稿群に繰り返し現れるこうした特徴的な語りを列挙した．つぎに，これらの特徴的な語りがどのように似通っているかということや，言い回しと論理展開の組み合わせがどのような場合に頻出するかということを考察しながら，列挙した要素同士の関係をグループにまとめ，分析の軸をつくった．そして，それらの言い回しが含まれるコメントの姿勢・文脈に着目し，[暴力があった事実や暴力の被害者の訴え、人格などを] 否定する語り（negative narrative）支持する語り（supportive narrative），その他の語り（other narrative）の 3 つの大きなカテゴリに分けた．

3 つのカテゴリのうち，否定する語りと支持する語りの下には，たとえば〈性暴力自体はあったが被害者に非があるとするもの〉や，〈被害者を擁護，応援するもの〉など，その語りの形式によってサブカテゴリ（N1-N5，S1-S4，O1-O7）を置いた．さらに，否定する語りの豊富なバリエーションに対してより具体的な言い回しから精緻にアノテーションをするために，〈(被害者が）利得を得ていた（から非難されるのは仕方ない)〉,〈常識から考えてありえない（から非難されるべき)〉など，その否定の根拠によって，否定する語りのサブカテゴリ（N1-N4）の下にさらにサブカテゴリを置いた（N1a-N1d, N2a-N2c，N3a-N3d，N4a-N4c）.

以下にそれぞれのカテゴリについて簡潔に説明する．各カテゴリの実際の語りの例は表 1 に記載する．

N1 は，性暴力自体はあったと認めるものの，被害者に非があるとするものである．いわば自業自得・自己責任であるとするタイプであり，その行動により利得を得ていた（N1a)，過失があり暴力を受ける可能性は織り込み済みであった（N1b)， すべての人が被害を受けているわけではない（N1c)，告発時期が妥当でない（N1d）とする語りが含まれる．

N2 は，性暴力自体があったかどうか自体を疑問視するものである．ここには，告発の背後関係や被害者のこれまでの言動から言い分の妥当性

©2022 Information Processing Society of Japan

を疑問視するもの（N2a），”普通は"（こうではない），”客観的にみて”（嘘をついている）などとして常識などを論拠に信用性を貶めるもの（N2b），反証可能性のなさを論拠として冤罪である可能性を示唆したり言い分を否定したりするもの（N2c）が含まれる．

N3 は問題の周縁から，間接的に否定を試みるものである．告発や報道などのプロセスに問題があると訴えるもの（N3a），司法や警察などの公的な決定に対してこれ以上異議申し立てをすべきでないとして，このような手続きを踏むこと自体を否定の根拠とするもの（N3b），論点をずらして話をすり替え，問題を矮小化するいわゆる whataboutism（N3c），自身の経験や社会慣習に依拠し，昔から存在するものに対して騒ぎすぎであると謗るもの（N3d）が含まれる．

N4 は，被害者の人格や属性に対する否定や攻撃である．N1 から N3 までは，なにかしらの論拠に基づいて否定しようとする言説であるが，N4 は対象の人格や属性に対して直接否定を行うものである．被害者の容姿を貶めたり，存在を煙たがったりして「嫌われている」「出ていけ」などの言葉を一方的に投げつけるもの（N4a），被害者の人格に問題があるとするもの（N4b），国籍や政治信条などのレッテルに基づいた差別発言（N4c）が存在する．

N5 は批判の対象が大きな主語に向かい，ある属性を持つものすべてを貶めるものである．「女」や「フェミニスト」などの大きく漠然とした主語に対する一般的かつ敵対的な言説をここに分類する．

支持する語りとしては，加害者を非難する（S1），被害者を擁護，応援する（S2），自分の経験などを語ったあとに付加的に被害者擁護を表明する（S3），コメントにあらわれた否定的な言説に対抗する（S4）語りがあり，その他の語りとしては，事実をただ述べる（O1），記事と類似した自分の経験や知り合いの話をする（O2），政治，思想信条などの談義（O3），対象の内側や裏側を推察するなどして自分の見立てや考えを述べる（O4），ハラスメントやいじめなど，類似する事柄やその構造自体への言及（O5），これらいずれにも入らないもの（O6）に分類した．

類型の作成後，12 記事，727 ポストに対し，1 ポストに 1 つのカテゴリを対応させてアノテーションを行った．類型作成にあたって全ポストを通覧した際，1 つのポストにおおむね 1 つのカテゴリを当てはめることのできる事例が多かったため，1 つのポストに 1 つのカテゴリを対応させてラベルをつけた．なお，アノテーションは主著者がすべて行い，その後ランダムサンプリングで抽出した 104 のポストについて共著者 2 人が行った．

記事は広く性暴力に関する記事を分析することとし，内容ごとに，著名人の#metoo，映画界の#metoo，性暴力の訴訟，舞妓の#metoo，子どもに対する性暴力，政治界における#metoo の 6 つに分類した．

Label	N: 否定する語り Negative narrative
	N1(a-d)：性暴力があったことは認めるものの，被害者の責任を問うもの
N1a	なにかしらの利得を得ていたとするもの *「役に実力が見合ってないのに、体使って役を得たケースもあるはず。それを性暴力っていうのはしっくりこない」*
N1b	なんらかの不注意・過失があったとするもの *「薄々、わかっていたことだと思います。舞妓から芸妓に襟変えするまでに嫌なら逃げ出したらよかったのではないですか。影があったりして尚華やかな芸妓の世界になって行くのだと思います。芸能界、アイドル、女優になるにも肝が座ってないとなれないと思います」*
N1c	すべての人が被害を受けているわけではないとするもの *「1 人の元舞妓さんの言葉は本当だとしても、業界全体がそうだと直結させるのは早計だと思います。そして、それを煽っているのはメディアでしょう？」*
N1d	告発時期の妥当性を疑問視するもの *「こういう告発は、結局有名になった人が後から声をあげるから、そんなこと言っても恩恵は受けたんじゃないの？と思われてしまう。多くの人が関わった作品がどんなにぶち壊しになろうと、その場で騒ぎ立てるのが一番良いんじゃないかと思う。加害者は最悪だが、これは被害者も自分の意思である程度コントロールできるものだったと思う。女優も、無名だろうと有名だろうと、そんなことをして仕事を得ることは、結局誰のためにもならないことをよく考えるべき」*
	N2(a-c)：性暴力自体があったかどうか自体を疑問視するもの
N2a	告発の背後関係や被害者のこれまでの言動から言い分の妥当性を疑問視するもの（ *「とりあえずこの女性の背後にいる奴らがあまりに胡散臭い政党の連中なのでかなりのマイナス要素になっているんですよ。真実を言っていたとしてもあの連中がいることで信用が駄々下がりなんです」*
N2b	”状況証拠”や”常識”を論拠とするもの *「女性が性的暴行を受けるようなことがあった場合、それが事実なら被害を受けた方はそのことを大々的に知られたくないし、心の傷を 1 日でも早く癒すことが第一であるのが普通です。ところが全面的にさらけ出す行動は普通ではない。ホテルへは相手男性に抱えられて無理やり連れ込まれたんでしょうか？」*
N2c	反証可能性の無さを根拠とするもの *「もちろんホントに被害にあった方もいらっしゃるんだろうけど信用ならない…証拠なくても言ったもの勝ちになってる。被害者から迫った可能性もありそうだし」*

©2022 Information Processing Society of Japan

	N3(a-d)：問題の周縁から，間接的に否定を試みるもの
N3a	告発や報道のプロセスに問題があるとするもの *「本国の#MeToo では、被害を訴える側は名前も顔も出していた。冤罪リスクを考えない週刊誌の報道のしかたには大いに疑問。あれではジャーナリズムではなく近所の井戸端会議だ。告発者の名前を出せないのであれば、記事を出す前に加害者とされる側にも取材をして、両論併記にするくらいの縛りは必要ではないか」*
N3b	司法や警察などの公的な決定に対してこれ以上異議申し立てをすべきでないとするもの *「言いたいことは分かったけど、法廷で行われている以上は法廷で争うべきでは。法廷外から裁判官に圧力をかけるのが正しいとは思わない。司法の独立は民主主義の中核だ」*
N3c	「〇〇はどうなのか」と論点をずらすもの（whataboutism） *「法的に問題なくても道義的な問題は別に検討する必要があると思います。理念は立派でも方法論が間違っていたらいらぬ軋轢を生むだけ」*
N3d	自身の経験や社会慣習に依拠するもの *「だいたいお茶屋と呼ぶ時点で内容なんかわかるだろ。今更なに騒いでんだ」*
	N4(a-c)：人格や属性に対して否定を行うもの
N4a	被害者の容姿を貶めたり，存在を煙たがって「嫌われている」「出ていけ」などの言葉を一方的に投げつけたりするもの *「大勢の人がこの人を嫌ってる事実は変わらないよ」「別の容姿に生まれていた方が幸せだったんだろな～、この人の場合」*
N4b	被害者の人格に問題があるとするもの *「日本人を馬鹿にしたような言い方する人なので恩恵を受けている国や国民に対しての配慮や感謝が足りない人だなと認識してます。女性云々の前に人としてどうなのと思ってしまいます」*
N4c	国籍や政治信条に対する差別発言 *「韓国の通名ですね。日本で活動する以上少しは自重すべきというのが多数の日本人の感覚です」*
	N5：大きな主語に向かうミソジニー
N5	批判の対象が大きな主語に向かい，ある属性を持つものすべてを貶めるもの（「女」や「フェミニスト」などの大きく漠然とした主語に対する一般的かつ敵対的な言説） *「女には関わらないのが一番」*
	S: 支持する語り Supportive narrative
S1	加害者を非難するもの *「こんな輩を二度と表舞台に立たせてはいけない！起用するスポンサーやテレビラジオ等も同罪！！！永久追放を望む！」*
S2	被害者を直接的に擁護，応援するもの *「苦しみ抜いた先の勇気、本当に尊敬します。私も、応援しています」*
S3	自分の経験をもとに被害者擁護を表明するもの *「30 代後半の時、女性上司からセクハラの被害はないか？と面談をされた。この歳だしないですよと笑ったら、自分は若い頃、職場で残業中にいきなり隠れていた男性上司に抱きつかれた、そういったことはなかったか？と心配してくれた。そういった犯罪に遭いながらも仕事を続け、出世し、女性の部下へ配慮をしてくれてすごく感謝したことを覚えている。この女性も立派だと思う」*
S4	コメントにあらわれた否定的な言説に対抗するもの *「いや意味不明ではないでしょ。子供には手を出しちゃいけないというだけの話でしょ」*
	O: その他の語り Other narrative
O1	事実をただ述べるもの *「昭和 60 年代の検挙人員以降、おおよそ捜査員が 40%以上増員されて、現在では 2600 人が猥褻系の人員になっている。人員増加に伴い、60 年ごろから検挙件数は増加傾向にあって、おおよそ 2 倍の検挙件数になっている。おおよそ平成 10 年から、最盛期が 16 年頃で、本来の認知件数の推移になる２０年ごろまで認知件数だけが跳ね上がった時期がある」*
O2	自分や知り合いの経験の話をするもの *「中学 3 年のときの美術教師が、今思うと相当変だった。授業の時間になっても騒いでいると、なぜかその教師の膝に座らせられる。さらに酷くなるとほっぺたや首筋を舐められる。その罰？は男女関係なく行われていて、生徒たちは気持ち悪がりながらも面白がってた。本当かどうかわからない先生の心霊体験の話とか独特な人柄が面白くて嫌いじゃなかったのだけれど、あのひとほんとなんだったんだろう…」*
O3	政治談義や思想信条など大きなものに結びつけて語るもの *「だいたい、国会議員はじめ地方議員も、偉くなったように勘違いしています。まあ、議員なんて所詮その程度の人間が集まった集団。だから、歳費削減、議員削減なんかは決められないのです。野党も、サクラとか、モリカケはうるさく言うが自らに降りかかることはダンマリかいな。国民はバカじゃないぜ」*
O4	対象の内側や裏側を推察するなどして，自分の見立てや考えを述べるもの *「説明された状況からすると同意があったとはとても思えないが、今の法律の要件（女性側に非常に厳格な立証を求めている）では有罪にはならない。判決文の言い方はどうかと思うが、それをおいておけば、（実際には同意がなかったと信じるとして）批判すべきは裁判所よりも法律かなと思う」／「生徒同士でも被害が多いが泣き寝入りです」*
O5	類似する事柄やその構造に言及するもの *「マスコミもそれを許容していたという話だよな。左翼界隈もセクハラスキャンダルだらけだよな。世代なのか政治に関わる人間の常識なのか知らんが、こういうの丸ごと世代交代と一緒に滅んでほしい」*
O6	その他，S でもなく N でもなく 01-05 のいずれにも入れられないもの *「これってどっちのくくりに入るの？」*

表 1. 各語りのカテゴリとその具体例

©2022 Information Processing Society of Japan

３．分析の結果と考察

分析の結果

表 2 から表 4 は主著者のアノテーションに基づく．表 2（サイズが大きいため附録に掲載）は各記事にアノテーションをした結果を可視化したものである．著名人に対しては他の記事カテゴリよりも N4 の人格や属性に対する攻撃が多いと同時に否定する語りに対抗する S4 の語りも多くあらわれる様子や，映画界の話題では加害者の自業自得・自己責任に帰する N1 のタイプが多い様子など，記事ごと，すなわち被害や被害者の性質によって，人々の語りが少しずつ異なっている様子をおおまかに俯瞰することができる．

表 3 は記事ごとに否定する語りの内訳をあらわしたものである．すべてのカテゴリにおいて，問題の周縁から対象を否定しようとする N3 の語りがやや多い．また，女性性が職業にとって重要だと考えられている映画界，舞妓の記事に対しては，自業自得であるとする語り（N1）が多い．子どもに対する性暴力では N1 の語りがほとんどあらわれないのとは対照的に，未成年である舞妓に対して N1 の語りが多くあらわれる．またすべての記事において N5 の語りが少ないことや，著名人に対しては人格・属性への攻撃（N4）が多いことなども観察できる．

	N1	N2	N3	N4	N5
Celebrity	0.02	0.098	0.251	0.575	0.057
Film industry	0.394	0.098	0.31	0.176	0.022
Lawsuit	0.1	0.263	0.55	0.038	0.05
Maiko	0.458	0.25	0.208	0.042	0.042
Children	0.025	0.5	0.4	0.05	0.025
Politics	0.238	0.071	0.381	0.238	0.071

表 3.　各記事における否定する語りの割合

表 4 は否定する語り，支持する語り，その他の語りの割合を記事ごとにあらわしたものである．子どもに対する性暴力の記事以外は，支持する語りよりも否定する語りが多くあらわれる．ただし子どもに対する性暴力の記事に支持する語りが多いわけでもない．また，舞妓と政治界の#metoo についてはその他の語りが多くなっている．実際のデータをみると，舞妓の話は伝統芸能の是非，政治界の話は一般的な政治談義へと話題の遷移が起こりがちであった．記事の性質によって，話題が遷移しがちなものとそうでないものがあったことがその他の語りの割合に影響を与えている可能性がある．

	Negative	Supportive	Other
Celebrity	0.489	0.295	0.216
Film industry	0.421	0.305	0.274
Lawsuit	0.459	0.147	0.394
Maiko	0.421	0.096	0.482
Children	0.273	0.351	0.377
Politics	0.307	0.102	0.591

表 4. 各記事における３つの語りの割合

アノテーションの結果について

アノテーションは主著者がすべてのデータに対して行い，その後ランダムサンプリングで抽出された 104 のポストについて共著者 2 人が行った．3 人のつけたラベルの一致度は，カテゴリ（N1-N5, S1-S4, O）が 3 人中 2 人で一致した割合が 88%（91/104），一致していないもののうち同一コメントに対して対立するラベル（N と S）がついたものは 5%（7/104）だった．

また，3 人のアノテーターのラベルの付け方については，同じコメントに対して否定する語りのラベル（N）とその他の語りのラベル（O）がつくことがあった．これはたとえば，書き手の内心としては蔑む気持ちがあるがテクストとしては中傷と捉えることは行き過ぎであるとして O のラベルをつけたアノテーターがいる一方，同じコメントについてテクストだけをみればぎりぎり中傷に当たらない可能性があるが，文脈から見れば中傷的であるので N のラベルをつけるアノテーターがいる，といったことに起因する．また，少数ではあるが同一コメントに対して対立するラベル（N と S）がついたものがあった．これらのラベルがついたコメントの中には，記事に対してわかりにくい皮肉を書いたものや，あるユーザが書いたコメントに対するリプライを，記事に対するコメントであるとアノテーターが勘違いしたもの，すなわち文脈を読み違えたものなどがあった．そもそも読むという行為自体から人それぞれの解釈や誤りを排除することが原理的に不可能であることを踏まえれば，この結果は一定程度類型が妥当であることを示しているといえるだろう．

既存研究との対応

関連研究との対応として，まず Rebecca A. DiBennardo による社会学の質的研究が挙げられる[3]．新聞記事が性犯罪者の被害者や加害者をどのように表象しているかを分析したこの研究で，著者は 1990 年から 2015 年にかけて掲載されたロサンゼルス・タイムズの記事 323 本の内容分析を行い，性犯罪者の表象が被害者の年齢とジェンダーに左右されることを明らかにしている．報道

©2022 Information Processing Society of Japan

は犯罪者の厳しい処罰を正当化する修辞として無垢で無力な「理想的」被害者像を描くが，被害者が成人女性の場合には被害者に焦点が当てられるという．成人女性は自らの被害に対して子どもよりも責任があるかのように仕立て上げられ，被害の重要性を軽視される傾向にあるという．この知見は，本研究の表 4 で示されたとおり，子どもに対する性暴力の記事のみ否定する語りが少ないこと，それ以外の対象に対しては否定する語りが多いことと対応する．加えて，舞妓に対するコメントと子供に対するコメントのアノテーションの結果からは，未成年であっても理想的な被害者と捉えられない属性を持つ場合（この場合には職業として客に接している），被害者は庇護すべき対象としても無垢な存在ともみなされず，成人女性と同等の扱いを受けるということが仮説として導き出せる．

さらに，これまでの観察によって，道徳哲学の観点からミソジニーを「道義的非難（moralistic blaming）」と位置づけた Kate Manne のアプローチ[4]との対応関係を指摘できる．Manne によれば，ミソジニーは性差別（sexism）から区別され，後者は男性を特権化する家父長的な規範のシステム（「女性は愚かだから男性にしたがうべきである」など）を指す．このような規範に違反していないかどうか監視し，違反した場合には非難をつうじて家父長的な規範を遵守するよう強制するのがミソジニーの機能である．したがって，ミソジニー的な非難は，「家父長的な秩序に支配的な規範や期待を守っているか監視し〔*policing*〕，それらを強制する〔*enforcing*〕」(p. 78) [4]という点で，「道義的」である．このような彼女の分析は，これまで観察してきたデータからその裏づけをとることが可能である．事実，各ニュースに対するコメントには，女性という属性を貶める語り（N5）は少ないが，被害者の自己責任を主張する語り（N1）や，常識や反証可能性のなさに訴えて性暴力そのものを疑問視する語り（N2），そして告発や裁判のプロセスを問題視する語り（N3）は多数見られる．これはつまり，性差別的な語りはさほど見られないのに対して，常識や告発のプロセスなどなんらかの規範への違反を論拠として被害者に道義的な非難を行うミソジニー的な語りが多く存在しているということでもある．このようにデータからは Manne が指摘したような「道義的非難」としてのミソジニーを読み取ることができる．さらに，かねて問題視されてきた女性という属性をもって貶めるような性差別的表現よりも，道義的非難としてのミソジニーのほうがより数が多いことがわかる．Yahoo!Japan が法令に違反するコメントを禁止し削除していることを考慮にいれてもなお，「女性という属性を貶める語り」のすべてがこのガイドラインに沿って排除されることはないはずである．したがって，少なくともこのプラットフォームに投稿するユーザの間では，性差別のコードに抵触する発言はすべきでないという建前が共有されている可能性が示唆されているといえる．

４．結論と展望

本研究では，ソーシャルメディア上にあらわれる誹謗中傷のメカニズムとオンライン上の言説空間の全体像を理解するために，Yahoo!Japan ニュース上の性暴力に関する記事に対するコメントの分類スキーマの構築を行い，そのスキーマに従って誹謗中傷コメントの分類を行った．数理的な操作では計測・検知することの難しい言葉の意味内容や論理展開を捉えるために，分類スキーマを構築するに際してのコメントの読解は人手で行った．この手法を用いることで明確な解釈性を持った類型によってコーパスを”測る”ことが可能となった．また，コメントの語用論的な意味や，文章の置かれた文脈まで踏まえることにより，表面的な言葉の背景にある心理の類型や，類似の内容を伝える言い回しのバリエーションを収集することができた．また，アノテーションによって得られた結果と社会学および哲学の既存研究の知見との対応が見出せた．これにより，子どもの被害者と比べて成人女性は理想的な被害者ではなく，その被害に責任があるとみなされるという既存研究との一致や，性差別（sexism）とミソジニー（misogyny）の機能の違いが語りの差異として，すなわち語りの形式や否定の根拠の差異としてあらわれていることを示すことができた．さらに，既存研究の傍証だけではなく，新たな仮説を導き出すこともできた．

本研究では，ソーシャルメディア上に書かれた人々の語りの類型をつくり，その語りにラベルをつけて分析することで，既存研究の知見と矛盾がない結果が得られた．つまり，ミソジニーについての研究だけでなく他の幅広いトピックについても同じ手法をとることで，既存研究の知見との一致を見出せる可能性があり，それが叶えば既存研究の知見の貴重な傍証になる可能性がひらける．仮に既存研究の知見と一致しない場合にも，あらたな仮説を考えるための手立てとなるだろう．

また本研究では，テクストの意味内容や論理展開，文脈の複雑さなどをできるかぎり扱える形で情報学の手法に接続したいと考え，語りの形式や否定の根拠にしたがって人手で類型を作成した．

©2022 Information Processing Society of Japan

テクスト内外の文脈を踏まえて読解していくためには深い読解力が必要となるが，トピックについて基礎的な知識がある共著者がアノテーションを行なったところ，アノテーションには高い一致がみられたといってよい．人文学は複雑で簡単なラベリングでは扱えない対象を扱うがゆえに，対象を安易に捨象したり簡略化したりすることを忌避するが，本研究のように対象の質的な側面を保持しながら対象を量として扱えるようにするとともに，アノテーターに適切なインストラクションを与えることができれば，人文学と情報学をうまくつなぐことができるだろう．将来的にはこのような手法に基づいて構築したアノテーションスキーマに基づいた学習データの生成や，機械学習への応用へとつながるだろう．

謝辞

この研究は科研費基盤研究(C) SNS 解析のための日本語文体論の構築（22K12285），および基盤研究（A）構造抽出による自然言語ビッグデータへの高次高精度なデータマイニング技術の開発（19H0113）の助成をうけています．

参考文献

[1] Blei, David M. (2012). Probabilistic topic models. Communications of the ACM, 55, 77-84
[2] Yahoo!ニュースヘルプ 投稿内容に関する注意. https://support.yahoo-net.jp/SccNews/s/article/H000006454（2022 年 7 月 1 日閲覧）.
[3] DiBennardo, Rebecca A. (2018). Ideal Victims and Monstrous Offenders: How the News Media Represent Sexual Predators, Socius: Sociological Research for a Dynamic World, 4:1-20.
[4] Manne, Kate (2017). Down Girl: The Logic of Misogyny, Oxford University Press.
[5] Amnesty International, TROLL PATROL FINDINGS: Using Crowdsourcing, Data Science & Machine Learning to Measure Violence and Abuse against Women on Twitter, Retrieved 15th July 2022, from https://decoders.amnesty.org/projects/troll-patrol/findings
[6] Baker, Kim and Jurasz, Olga (2019). Online Misogyny as Hate Crime: A Challenge for Legal Regulation?, Routledge.
[7] Johanssen, Jacob (2021). Fantasy, Online Misogyny and the Manosphere: Male Bodies of Dis/Inhibition, Routledge.
[8] Marhia, Natasha (2008). Just Representation? Press reporting and the reality of rape, The Lilith Project, Eaves.
[9] Meyers, Marian (1997). News Coverage of Violence against Women: Engendering Blame, SAGE Publications.
[10] Miura, Mari (2021). Flowers for Sexual Assault Victims: Collective Empowerment through Empathy in Japan's #MeToo Movement. Politics & Gender, 17(4), 521-527.
[11] シモーヌ Vol.6 インターネットとフェミニズム: 私たちの空間を守る(2022), 現代書館.
[12] 前之園, 和喜 (2022). 性暴力をめぐる語りは何をもたらすのか 被害者非難と加害者の他者化. 勁草書房.
[13] 小川, たまか (2022). 告発と呼ばれるものの周辺で, 亜紀書房.
[14] Takedomi, Yuka, Suda, Towa, Kurita, Kazuhiro, Kobayashi, Ryota, Matsuda, Tomohiro, Uno, Takeaki (2022). Extracting Clichés: Typify Slanderous Expressions Against the Confessions in the #MeToo Movement, Digital Humanities Conference 2022 Abstracts, 695-696.

使用したデータについて

本研究に使用したデータは，以下の Yahoo!Japan のニュース記事についたコメントおよびリプライである．2022 年 10 月 31 日時点で，すでに Yahoo!Japan からは記事とコメントが削除され閲覧ができない．分析には閲覧日時点で投稿されていた全コメントを参照した．

1. 「社会と戦ったりするより、人間として幸せになってほしい」両親の反対、妹との決裂、それでも伊藤詩織が会見を開いたワケ（文春オンライン） - Yahoo!ニュース，3/8(火) 6:12 配信. https://news.yahoo.co.jp/articles/f8244634c8d65610125a967079707eee23b55d5d (2022 年 6 月 12 日閲覧).
2. 石川優実さん、控訴審も勝訴 「#KuToo」批判ツイート紹介の書籍めぐり 知財高裁（弁護士ドットコムニュース）- Yahoo!ニュース，3/29(火) 16:30 配信. https://news.yahoo.co.jp/articles/5d6b1c7a1144498cfcc74d0233e79808dac44b69 (2022 年 6 月 12 日閲覧).
3. 「水原希子」芸能界のタブーに切り込むワケ 女性から支持される行動力の源泉〈dot.〉（AERA dot.） - Yahoo!ニュース，5/16(月) 11:30 配信. https://news.yahoo.co.jp/articles/866315a16831134d266c7f3c260d3cc277e16928 (2022 年 6 月 12 日閲覧).
4. 鈴木砂羽、水原希子、橋本愛「セクハラ映画界」へ女優たち切実訴え（FRIDAY） - Yahoo!ニュース，4/21(木) 16:31 配信. https://news.yahoo.co.jp/articles/d886dc051b92eac45695443c9f6544d896c91d87 (2022 年 6 月 12 日閲覧).
5. 映像業界の性暴力「実態調査を」有志が声明。断れば「仕事を回されなくなる」不安…構造

©2022 Information Processing Society of Japan

的な背景を指摘（ハフポスト日本版）- Yahoo!ニュース，4/27(水) 17:22 配信.
https://news.yahoo.co.jp/articles/cf7c5b439d6a359d977e7f9335c624b3f1b86d66 (2022 年 6 月 12 日閲覧).

6. 芸能界の性加害、週刊誌や SNS での告発に弁護士が警鐘「必ずしも正しいやり方とは言えない」（オリコン） - Yahoo!ニュース，4/30(土) 8:40 配信.
https://news.yahoo.co.jp/articles/a390ef485d644d50cd4e6c0198de367e54d3a213 (2022 年 6 月 12 日閲覧).
7. 「勇気を出してくれた人たちのために」性暴力の撲滅訴えデモ　富山地裁の無罪判決に抗議し署名活動も（チューリップテレビ） - Yahoo!ニュース，6/5(日) 18:57 配信.
https://news.yahoo.co.jp/articles/9d5ed3b222f7621805b3ea06825a9872b3c35602 (2022 年 7 月 6 日閲覧).
8. 「同意はなかった」女性のあいまいな証言は信用できない？　堂々と語る男性の言葉を「真実」とした無罪判決〈dot.〉（AERA dot.） - Yahoo!ニュース，6/7(火) 17:15 配信.
https://news.yahoo.co.jp/articles/f22d82cfdc076c618cae356a3a170878583a375f (2022 年 7 月 6 日閲覧.
9. 「舞妓の実態」告発が柴咲コウ、上白石萌音らの「舞妓作品」にも飛び火“美化”演出への非難轟々（SmartFLASH） - Yahoo!ニュース，6/30(木) 17:25 配信.
https://news.yahoo.co.jp/articles/960038354a5ed31b8f27bf762dade135385c6df6 (2022 年 7 月 6 日閲覧).
10. 性暴力なのに「恋愛だと思わされた」　生徒が直面した学校での「呪い」の原体験〈AERA〉（AERA dot.） - Yahoo!ニュース，5/11(水) 17:00 配信.
https://news.yahoo.co.jp/articles/ae94bef2ca17a1e5bdb6a680b0a14a554c0dabb5 (2022 年 6 月 12 日閲覧).
11. 約 6 人に 1 人の子どもが性虐待にあっている！？「被害届は意味ない」という言葉に、やるせない気持ちを抱えた親の本音（たまひよ ONLINE） - Yahoo!ニュース，6/29(水) 12:55 配信.
https://news.yahoo.co.jp/articles/8f6297614cd13d0c9d1e6370663878bc9dbba249 (2022 年 7 月 6 日閲覧).
12. 「夜回りに行ったら突然抱きつかれ…」全国紙初の女性政治部長が明かす永田町のセクハラの実態（プレジデントオンライン） - Yahoo!ニュース，5/18(水) 11:16 配信.
https://news.yahoo.co.jp/articles/932bc7c1330227e10f7ed55ec11fe07ed6fb2923 (2022 年 6 月 12 日閲覧).

（附録）

表 2. 各記事における語りの割合（全カテゴリ）

	N1a	N1b	N1c	N1d	N2a	N2b	N2c	N3a	N3b	N3c	N3d	N4a	N4b	N4c	N5
Celebrity	0	0.02	0	0	0.01	0.049	0.039	0.114	0	0.111	0.026	0.178	0.143	0.254	0.057
Film industry	0.234	0.079	0.028	0.053	0	0.048	0.05	0.022	0.048	0.24	0	0.106	0	0.07	0.022
Lawsuit	0	0.1	0	0	0	0.013	0.25	0.025	0.313	0.2	0.013	0	0.013	0.025	0.05
Maiko	0.021	0.229	0.125	0.083	0.063	0.104	0.083	0.021	0	0.104	0.083	0	0	0.042	0.042
Children	0.025	0	0	0	0	0	0.5	0.025	0.075	0.175	0.125	0	0	0.05	0.025
Politics	0.048	0.095	0	0.095	0	0	0.071	0.048	0	0.214	0.119	0.024	0.071	0.143	0.071

	S1	S2	S3	S4	O1	O2	O3	O4	O5	O6
Celebrity	0.122	0.157	0.028	0.693	0.197	0.018	0.07	0.615	0	0.1
Film industry	0.369	0.144	0.042	0.444	0.049	0.018	0.08	0.49	0.23	0.133
Lawsuit	0	0.094	0	0.406	0.271	0.021	0	0.375	0	0.333
Maiko	0.364	0.273	0.091	0.273	0.018	0.018	0.036	0.764	0.073	0.091
Children	0.311	0.05	0.264	0.375	0.042	0.189	0.029	0.598	0.042	0.1
Politics	0.357	0	0.143	0.5	0	0.025	0.272	0.469	0.099	0.136

©2022 Information Processing Society of Japan